

令和7年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価  
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要(全体)

## 東海市地域公共交通会議 (東海市)

平成22年2月17日設置

令和 6年3月29日 東海市地域公共交通計画策定  
6月27日 // 一部改定  
(計画期間：令和6年4月～令和11年3月)

評価対象の地域公共交通確保維持事業  
・地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

## 【東海市の概要】（令和7年4月現在）

人口：113,242人

鉄道：名古屋鉄道 常滑線 5 駅、河和線 4 駅が所在

バス：知多バス 2 路線

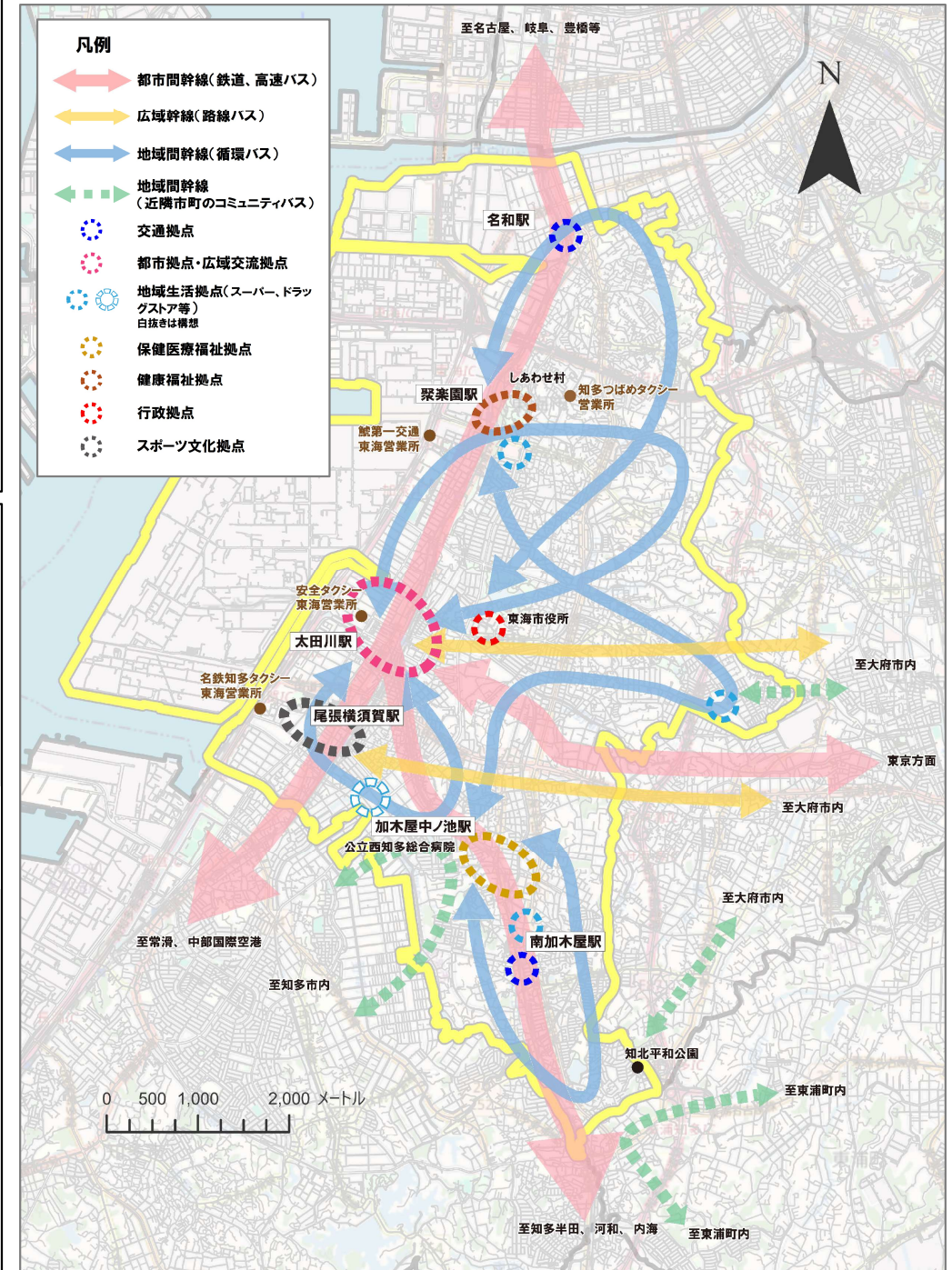
市循環バス（らんらんバス）5 路線 1 1 系統

タクシー：市内を運行する事業者 4 社

## 【計画策定の背景】

将来にわたる持続可能な公共交通網の実現のため、よりまちづくりと連携し一体化した公共交通ネットワークの構築を目指し、**東海市地域公共交通計画**を策定した。

## 【地域公共交通ネットワークイメージ図】



## 【将来像】

## 鉄道駅や地域生活拠点における 公共交通ネットワークが構築されているまち

## 【基本方針】

## 基本方針1

公共交通機関が調和した使いやすい交通体系の確保・維持

## 基本方針2

地域特性に応じた移動ニーズを満たす公共交通サービスの提供

## 基本方針3

地域全体で支える公共交通づくり

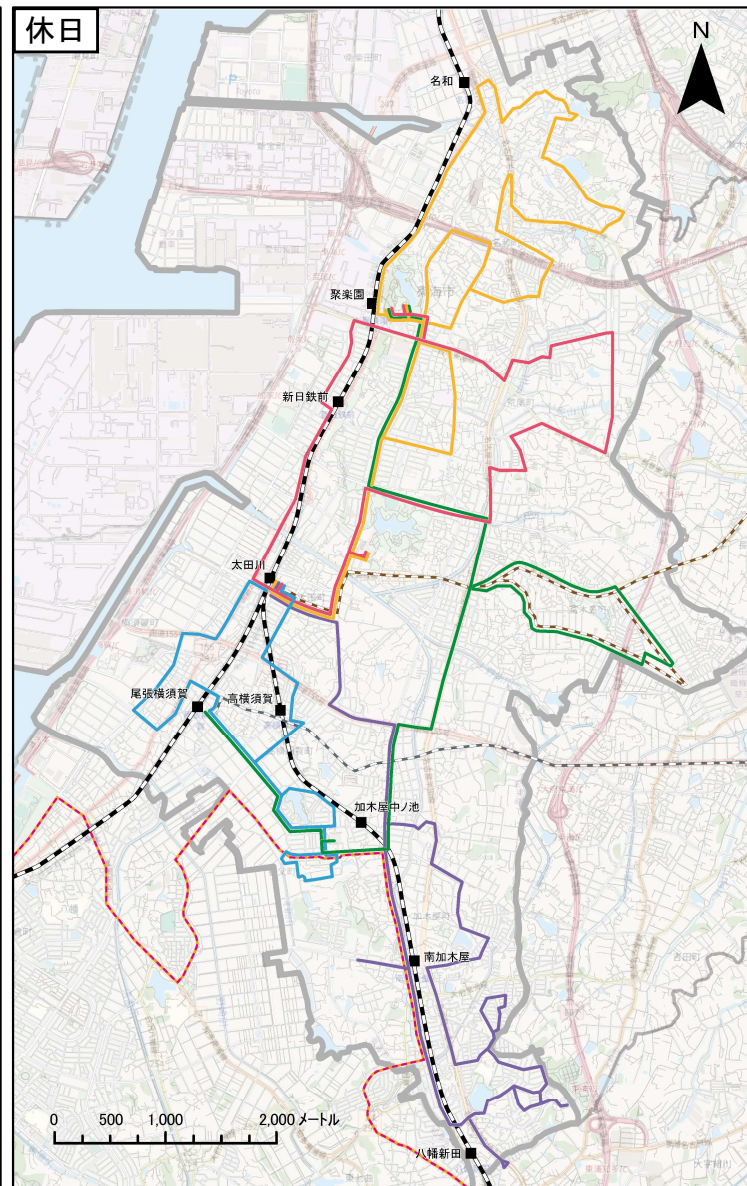
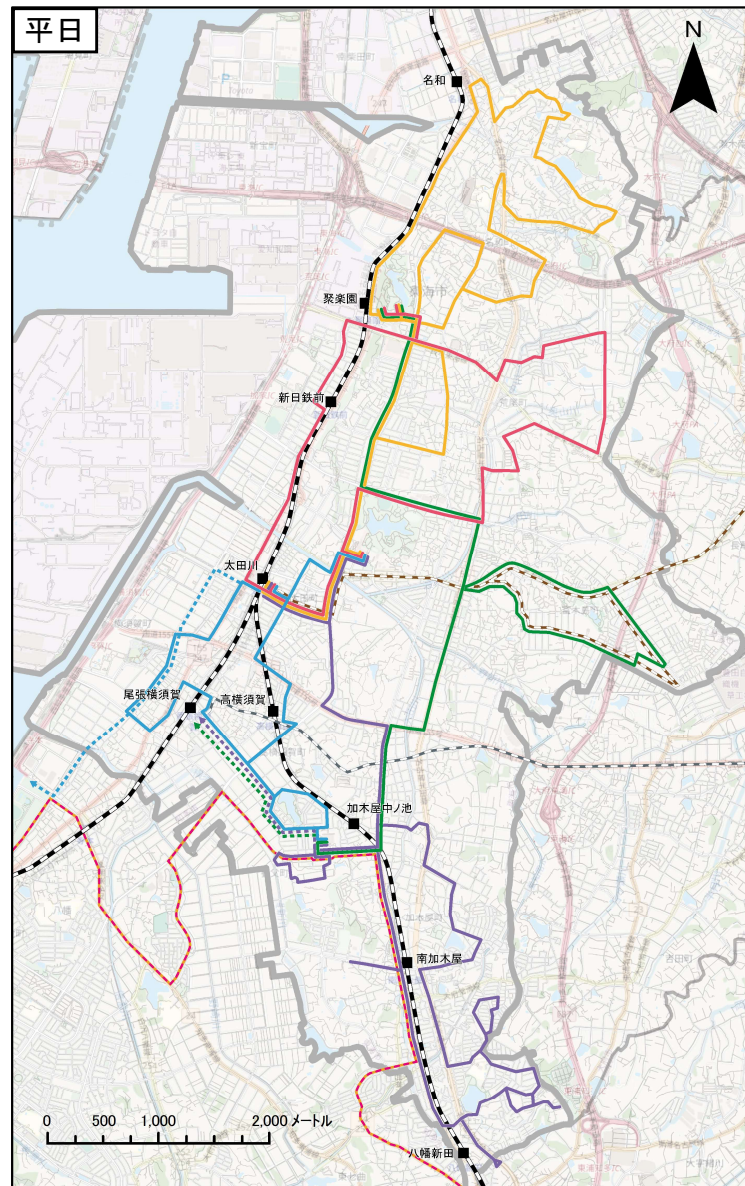
## 基本方針4

市域を跨いだ活発な移動を促進する仕組みづくり



## 【地域公共交通確保維持改善事業により確保・維持する路線について】

地域公共交通確保維持改善事業とは、地域の特性・実情に最適な移動手段の提供等により、移動にあたっての様々な障害が解消されるよう、地域公共交通の確保・維持・改善を支援することを目的に、国土交通省が交付する補助金のことで、本市においても、当該補助金による支援を活用し公共交通の維持・確保を図っています。



### <補助事業>

地域内フィーダー系統確保維持  
費国庫補助金（車両減価償却費  
等補助を含む）

### <概要>

地域間幹線系統である「知多バ  
ス 上野台線、横須賀線」に接  
続し、市民の日常生活の移動手  
段を確保・維持していく必要の  
ある路線

### <補助対象路線>

名和線、富木島線、加木屋線、  
横須賀線

### 凡例

■ 駅

— 鉄道線

知多市コミュニティ交通

— あいあいバス（地域間幹線補助系統）

東海市循環バス

— 名和線（地域内フィーダー系統）

— 荒尾線

— 富木島線（地域内フィーダー系統）

— 富木島線 駅接続ルート

（地域内フィーダー系統）

— 加木屋線（地域内フィーダー系統）

— 加木屋線 駅接続ルート

（地域内フィーダー系統）

— 横須賀線（地域内フィーダー系統）

— 横須賀線 駅接続ルート

（地域内フィーダー系統）

知多バス

— 上野台線（地域間幹線補助系統）

— 横須賀線（地域間幹線補助系統）



## 事業実施のスケジュール、令和6年度実施状況及び令和7年度実施予定

事業内容	実施主体	事業 期間	実施スケジュール					実施状況	実施予定
			R6	R7	R8	R9	R10	R6	R7
公共交通ネットワークの充実	東海市 交通事業者	中期間						【検討・協議】【実施】 令和6年10月1日ダイヤ・ルート改正	【検討・協議】 加木屋中ノ池駅バス停の新設に向けた検討
医療・福祉拠点への移動支援の充実	東海市 交通事業者	中期間						【検討・協議】【実施】 令和6年10月1日ダイヤ・ルート改正	【検討・協議】 加木屋中ノ池駅バス停の新設に向けた検討
待合環境等の整備	東海市 交通事業者	長期間							【実施】 消防署北出張所に上屋・ベンチ設置 6箇所（10基）のバス停にベンチ設置
駅前広場等の整備	東海市 交通事業者	長期間						【実施】 加木屋中ノ池駅周辺整備 （北口駅前広場整備）	【実施】 加木屋中ノ池駅周辺整備 （南改札口開業、南口駅前広場整備）
移動需要に応じた交通サービスの利用促進	東海市 交通事業者	長期間						【継続】 運転免許証自主返納者等にタクシー利用助成	【継続】 運転免許証自主返納者等にタクシー利用助成
輸送資源を活用した生活支援	社会福祉団体 小売事業者 物流事業者	長期間						【継続】 買い物支援バスの実施（社会福祉団体）	【継続】 買い物支援バスの実施（社会福祉団体）
新たな交通システム導入の検討	東海市 交通事業者 情報通信事業者	中期間						【検討・協議】 令和6年10月1日からデマンド交通（チョイソコとかい）の実証実験及び検証	【検討・協議】 デマンド交通（チョイソコとかい）の実証 実験及び検証
パーソナルモビリティ等の調査・研究	東海市 モビリティサービス 事業者	長期間						【検討・協議】 先進事例の情報収集 現地視察（蒲郡市）、Webセミナー受講等	【検討・協議】 先進事例の情報収集 Webセミナー受講等
公共交通教育及び利用促進活動の推進	東海市	長期間						【継続】 バス乗り方教室（2校） 高齢者スマートフォン活用支援講習会（60回）	【継続】 バス乗り方教室（6校） 高齢者スマートフォン活用支援講習会（70回） 循環バス（らんらんバス）にWebチケット導入 のりものカード（らんらんバス）の作成
バスロケーションシステムの充実	東海市 近隣市町 交通事業者 情報通信事業者	短期間						【検討・協議】【実施】 令和6年10月1日から新たなバスロケーション システムの導入	【継続】 バスロケーションシステムの運用
公共交通のわかりやすい情報提供の在り方についての調査・検討	東海市 交通事業者	短期間						【実施】 令和6年10月1日からガイドブック及びポケット 版時刻表の配布、ホームページにQ & A 及び経 路検索サイト情報を掲載	【実施】 英語版ガイドブックのデータを作成し、ホーム ページに登載
近隣市町コミュニティバスとの共通バス停の整備	東海市 近隣市町	短期間						【継続】 知多市、大府市と共通バス停の設置	【継続】 知多市、大府市と共通バス停の設置
利便性の高い地域公共交通の実現	東海市 近隣市町	長期間						【検討・協議】 知多市、大府市と情報交換	【検討・協議】 知多市、大府市と情報交換

短期間 1～3年程度
 中期間 4～5年程度
 長期間 4～5年程度
 → 検討・協議
 → 実施・整備
 → 継続的に実施

### 基本方針1

#### 公共交通機関が調和した使いやすい交通体系の確保・維持

施策：公共交通ネットワークの充実

#### 【実施事業】

公共交通ネットワークサービス向上に向けた交通ネットワークの再構築

#### 【事業内容】

公共交通機関の乗り継ぎや、各拠点及び主要施設の利用時間帯に合った行き帰りの利便性が確保された公共交通ネットワークの構築を図るため、市内循環バスのダイヤ・ルート再編を実施

#### 【実施結果】

令和6年（2024年）10月1日からこれまでの3路線6系統から5路線11系統に再編して運行開始



令和6年（2024年）10月1日  
新EVバス出発式（名和駅前にて）



EVバス充電設備  
（東海市役所）

施策：駅前広場等の整備

#### 【実施事業】

加木屋中ノ池駅の駅前広場整備によるアクセス性の向上

#### 【事業内容】

令和6年3月に開業した加木屋中ノ池駅に循環バスやタクシー等の利用や自家用車での送迎が円滑で快適にできる駅前広場を南北2箇所に整備

#### 【実施スケジュール等】

令和7年3月 北口駅前広場関完成

令和7年度末 南改札口開業予定



加木屋中ノ池駅周辺  
イメージパース



加木屋中ノ池駅  
北口駅前広場



### 基本方針2

#### 地域特性に応じた移動ニーズを満たす公共交通サービスの提供

施策：移動需要に応じた交通サービスの利用促進

##### 【実施事業】

運転免許証自主返納者へのタクシー利用助成

##### 【事業内容】

運転免許証を有効期限内に自主返納した市民に対して、75歳未満の方には、無料で循環バスに乗車することができる特別乗車証を支給し、75歳以上の方には、タクシーチケット（2,000円分：400円券×5枚綴のもの）を支給

##### 【実施結果】

＜令和6年度＞

利用実績枚数 420枚

運転免許証自主返納人数 248人

施策：新たな交通システム導入の検討

##### 【実施事業】

A I オンデマンド交通の実証実験等

##### 【事業内容】

乗合型の公共交通サービスである(株)アイシンが提供する「チョイソコ」の実証実験を「東海市北部エリア（国道302号以北の名和町、南柴田町、浅山の一部）」で令和6年（2024年）10月1日から実施

##### 【実施結果】

＜令和7年3月末時点＞

会員登録者数 321人

延べ利用者数 771人

実利用者数 69人

乗合率 1.25人／区間



令和6年（2024年）10月1日  
デマンド交通出発式（名和駅前にて）

## 基本方針3

## 地域全体で支える公共交通づくり

施策：公共交通教育及び利用促進活動の推進

## 【実施事業】

地域、学校、職場を対象にしたモビリティ・マネジメントの実施

## 【事業内容】

マイカー社会の進展に伴い、バスの乗車経験がなく、乗り降りの仕方を知らない児童が増えているため、公共交通であるバスに親しみ、バスへの理解と関心を高めるとともに、将来的な利用者につなげるため、小学生を対象としたバスの乗り方教室を実施

## 【実施結果】

&lt;令和6年度&gt;

11月27日(水)

午前	三ツ池小学校	1年生	48人
午後	渡内小学校	4年生	78人



渡内小学校

施策：バスロケーションシステムの充実

## 【実施事業】

近隣市町のコミュニティバス等にも対応したバスロケーションシステムへの更新

## 【事業内容】

令和6年10月の市内循環バスのダイヤ・ルート再編に合わせて、バスロケーションシステム（英語対応）及び公立西知多総合病院に設置したデジタルサイネージを更新

## 【実施結果】

令和6年10月1日 バスロケーションシステム更新



バスロケーションシステム

公立西知多総合病院  
デジタルサイネージ

バス停掲示物

### 基本方針3

#### 地域全体で支える公共交通づくり

施策：公共交通のわかりやすい情報提供の在り方  
についての調査・検討

#### 【実施事業】

新たなバスマップや時刻表の作成

#### 【事業内容】

令和6年10月の市内循環バスのダイヤ・ルート再編に合わせて、誰もがわかりやすく、簡単に情報を入手することを可能とするため、見やすさを考慮した新たなバスマップや時刻表を作成

#### 【実施結果】

令和6年9月 新たなバスマップや時刻表を作成

冊子版：9月1日号広報紙に折込みで配布

公共施設（51箇所）、知多バス東海営業所で配布



ポケット版：公共施設（51箇所）、バス車内、知多バス東海営業所で配布





地域公共交通計画における目標指標と達成状況

目標指標		目標指標 の方向性	基準とする数値 (現況値)	実施時期	データ取得の 主体等	実績数値 R6年度(2024年度)	基準値との比較 (実績数値－現況値)	状況	目標値 R10年度(2028年度)
基本方針 1	指標1 主要公共交通の年間利用者数	➡	18,248,777人/年 R4年度(2022年度)	毎年度	交通事業者	19,645,891人/年	1,397,114人/年	向上	20,581,000人/年
	市内鉄道駅の乗降者数	➡	17,726,590人/年 R4年度(2022年度)	毎年度	交通事業者	19,080,928人/年	1,354,338人/年	向上	19,970,000人/年
	市内を運行する路線バスの利用者数	➡	214,985人/年 R4年度(2022年度)	毎年度	交通事業者 東海市	272,762人/年	57,777人/年	向上	233,000人/年
	循環バス(らんらんバス)の利用者数	➡	307,202人/年 R4年度(2022年度)	毎年度	交通事業者 東海市	292,201人/年	△15,001人/年	低下	378,000人/年
	指標2 市内・市外への移動が円滑にできる環境が整っていると思う人の割合	➡	68.7% R4年度(2022年度)	毎年度	東海市	70.9%	2.2ポイント	向上	73.4%
	指標3 循環バス(らんらんバス)利用者1人当たりの市負担額	➡	445.6円/人 R4年度(2022年度)	毎年度	東海市	688.9円/人	243.3円/人	悪化	現況値以下
	指標4 待合環境が整備されたバス停数	➡	10箇所 R5年度(2023年度)	計画期間 最終年度 (R10)	東海市				13箇所

＜鉄道＞

太田川駅を始めとした主要駅での乗降者数の増や令和6年3月に開業した加木屋中ノ池駅の開業等により順調に推移している。

＜路線バス＞

上野台線、横須賀線ともに順調に利用者数が増加しており、横須賀線は、令和5年3月1日ダイヤ改正で運行時刻の変更(運行回数は変更なし)を実施したことにより、利便性が向上し、利用者数が増加したと考える。

＜循環バス(らんらんバス)＞



ダイヤ・ルート再編後に利用者数が減少しているものの、徐々に利用者数が回復すると見込んでいる。

＜市内・市外への移動が円滑にできる環境が整っていると思う人の割合＞

鉄道駅周辺の満足度が高い。また、49歳以下の満足度が高く、50歳以上の満足度が低い。






＜循環バス(らんらんバス)利用者1人当たりの市負担額＞

令和6年10月1日のダイヤ・ルート再編により、車両数の2台増及び運転乗務員の処遇改善に伴う人件費増等から運行経費が増えたこと及び利用者数が減少したことにより1人当たりの運行経費が増加している。

目標指標			目標指標 の方向性	基準とする数値 （現況値）	実施時期	データ取得の 主体等	実績数値 R6年度（2024年度）	基準値との比較 （実績数値－現況値）	状況	目標値 R10年度（2028年度）
基本 方針 2	指標 5	新たな交通システムの導入件数		未実施 R5年度（2023年度）	計画期間 中間年度 （R8） 最終年度 （R10）	東海市				現況値以上
	指標 6	買い物バスの利用者数		5.8人/回 【参考】292人/50回 R4年度（2022年度）	毎年度	東海市	5.8人/回 【参考】722人/124回	0.0人/回	向上	現況値以上

<買い物バスの利用者数>

1回当たりの利用者数は維持されて、利用者数及び運行回数は順調に伸びている。  
（292人/50回（令和4年度）→722人/124回（令和6年度））

目標指標			目標指標 の方向性	基準とする数値 （現況値）	実施時期	データ取得の 主体等	実績数値 R6年度（2024年度）	基準値との比較 （実績数値－現況値）	状況	目標値 R10年度（2028年度）
基本 方針 3	指標 7	バスの乗り方教室や出前講座の参加人数		303人/年 R4年度（2022年度）	毎年度	東海市	390人/年	87人/年	向上	393人/年
	指標 8	バスロケーションシステムのアクセス数		約324,000件/年 【参考】27,000件/日 R4年度（2022年度）	毎年度	東海市	184,954件/年 【参考】30,826件/月 ※R6.10.1～運用	△139,046件/年 【参考】3,826件/月	向上	408,000件/年 【参考】34,000件/月
	指標 9	駅や主要公共施設等へのデジタルサイネージ導入箇所数		1箇所 R5年度（2023年度）	計画期間 中間年度 （R8） 最終年度 （R10）	東海市				3箇所
基本 方針 4	指標 10	循環バス（らんらんバス）の近隣市町への乗り入れ路線数		未実施 R5年度（2023年度）	計画期間 最終年度 （R10）	東海市				1路線
	指標 11	近隣市町への乗り継ぎが可能なバス停数		15箇所 R5年度（2023年度）	計画期間 最終年度 （R10）	東海市				17箇所

<バスの乗り方教室や出前講座の参加人数>

バスロケーションシステムの使い方講座回数を増加（48回→60回）したことにより、出前講座の参加人数が順調に伸びている。

<バスロケーションシステムのアクセス数>

以前よりも使いやすくなったことや市の公式LINEからのリンクにより順調にアクセス数が伸びている。



**【自己評価から得られた課題】**

- ・主要公共交通（鉄道・路線バス・循環バス）の年間利用者数は増加しているものの、フィーダー系統である**循環バスの利用者数が減少**しており、利用促進対策を図りながら、利便性の向上に向けてダイヤ・ルート再編後の**利用状況及び利用者の意見聴取を行う必要がある**。  
また、公共交通の利用者数の更なる向上に向けて、**公共交通ネットワークの充実に図る必要がある**。
- ・**高齢者の満足度が低く**、循環バスを含めた移動手段の不足が考えられるため、**既存の移動手段を維持しながら、新たな公共交通の導入について検討する必要がある**。

**【今後の取り組み】**

- ・**Webチケットの導入**により利用者の利便性を向上するとともに、バスの乗り方教室等の利用促進対策を継続して実施する。また、待合環境を向上するため、**上屋・ベンチの設置を進める**。
- ・各公共交通機関の乗継が図られるように市ホームページにおける乗継検索サイトへの案内を掲載するとともに、**加木屋中ノ池駅の南口駅前広場において、バス停の設置に向けたダイヤ・ルート改正の検討を実施する**。
- ・**AI オンデマンド交通の実証実験を実施**し、高齢者の移動手段の不足等が解消できるかどうか検証する。
- ・**公共交通に対するアンケート調査による利用者及び市民の移動ニーズの把握に向けての検討を進めるとともに、各公共交通での利用実態を把握し、過度に自家用車に依存しないまちづくりを目指す**。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	新たな路線・ダイヤでの運行開始後の利用状況等を収集し、必要に応じ対応を検討する等、今後も引き続き利便性向上に努められることを期待します。	ダイヤ・ルート再編後の利用状況进行分析し、加木屋中ノ池駅南口駅前広場のバス停設置に合わせ、一部の路線のダイヤ・ルート改正の検討を行った。	加木屋中ノ池駅南口駅前広場のバス停設置に合わせ、一部の路線のダイヤ・ルート改正の実施を予定する。
	加木屋中ノ池駅南口駅前広場の整備等を踏まえ、交通事情や移動需要の変動への対応や交通結節点での乗り換え利便性の向上、利用方法に係る情報発信等、今後も引き続き利用しやすい公共交通の実現と利用促進に繋がる取り組みを継続されることを期待します。	利便性向上のため、Webチケットの導入、外国語版のバスガイドブックのホームページ掲載及び待合環境整備として、上屋・ベンチの設置を行った。	次期ダイヤ・ルート改正を見据え、各バス停の利用状況などを把握しながら検討を進める。 引き続き、上屋・ベンチの設置や利用促進対策を進め、より循環バスを身近に感じてもらうコンテンツを増やしていく。

※前回：令和7年3月21日

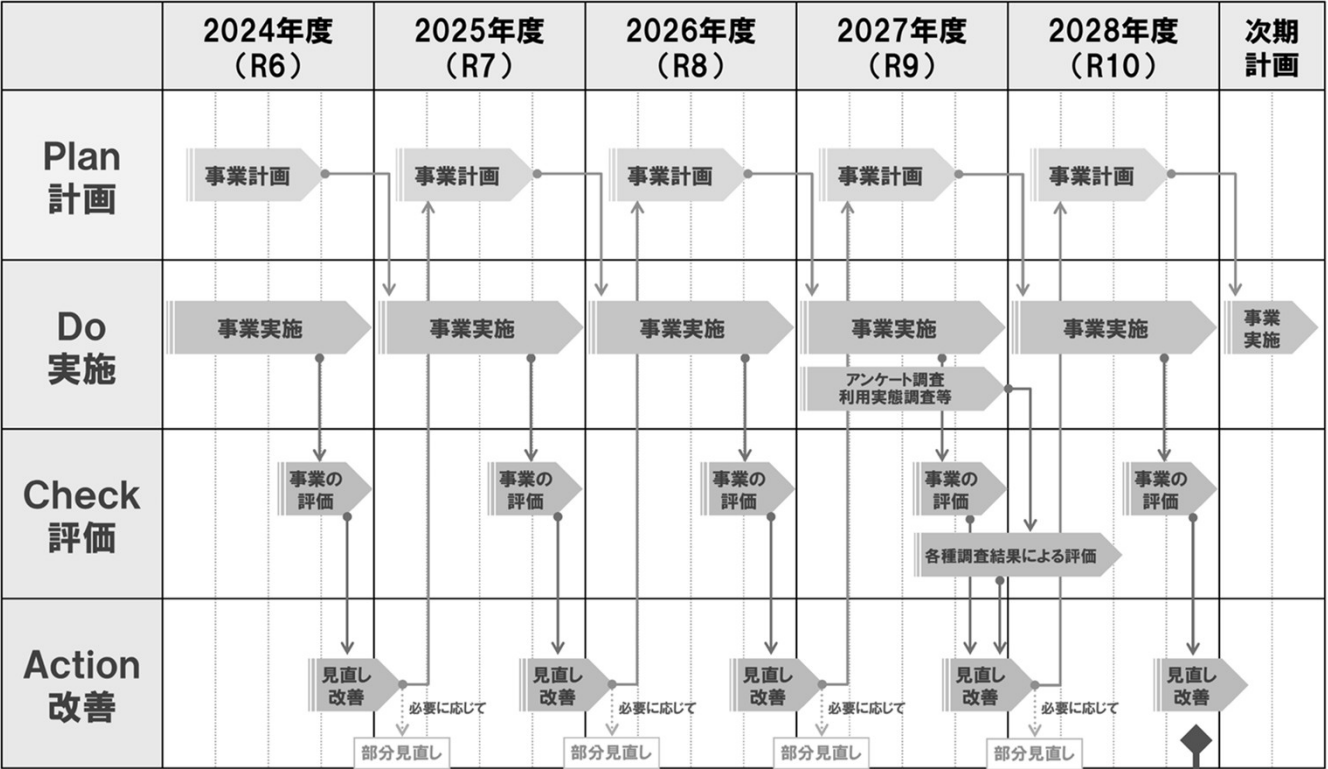


年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前々回	中ルート、南ルートともに利用者数が回復傾向にあり、今後のルート再編で隣接市町村との乗り入れを行うことで、新規利用者の創出につながることを期待します。	ダイヤ・ルート再編に向けて、公共交通計画に基づくダイヤ・ルート案を作成し、パブリックコメントによる意見を参考に令和6年10月からの新ダイヤ・ルートを決定した。	ダイヤ・ルート再編後も、引き続きアンケート調査や乗降調査の分析を進め、利用者の多様なニーズに対応する中で、近隣市と協働し、今後も相互間利用が可能なダイヤ・ルートを引き続き検討する。
	引き続き、バスロケーションシステムや令和5年4月より導入したICカード決済など、利便性向上に関する周知やPR等が行われることを期待します。	近隣市との協働、他部署との連携した施策の実施を引き続き行うことにより、利用促進を継続した。	引き続き、近隣市との協働、他部署との連携した施策を実施し、利用促進を継続する。
	地域公共交通計画に位置づけたバス停の待合環境等の整備や公共交通のわかりやすい情報提供を行うことで、地域間幹線系統と共に利用の増加につながることを期待します。	ダイヤ・ルートが3路線から5路線に変更することで、ダイヤ・ルートが複雑化するため、ガイドブック及びポケット版の時刻表を作成し、利用者に対してわかりやすい情報提供を行った。	主要な交通拠点における利用や乗り継ぎ時の待合環境の向上を図るため、バス停留所に上屋やベンチ等の整備を検討する。

※前々回：令和6年3月21日

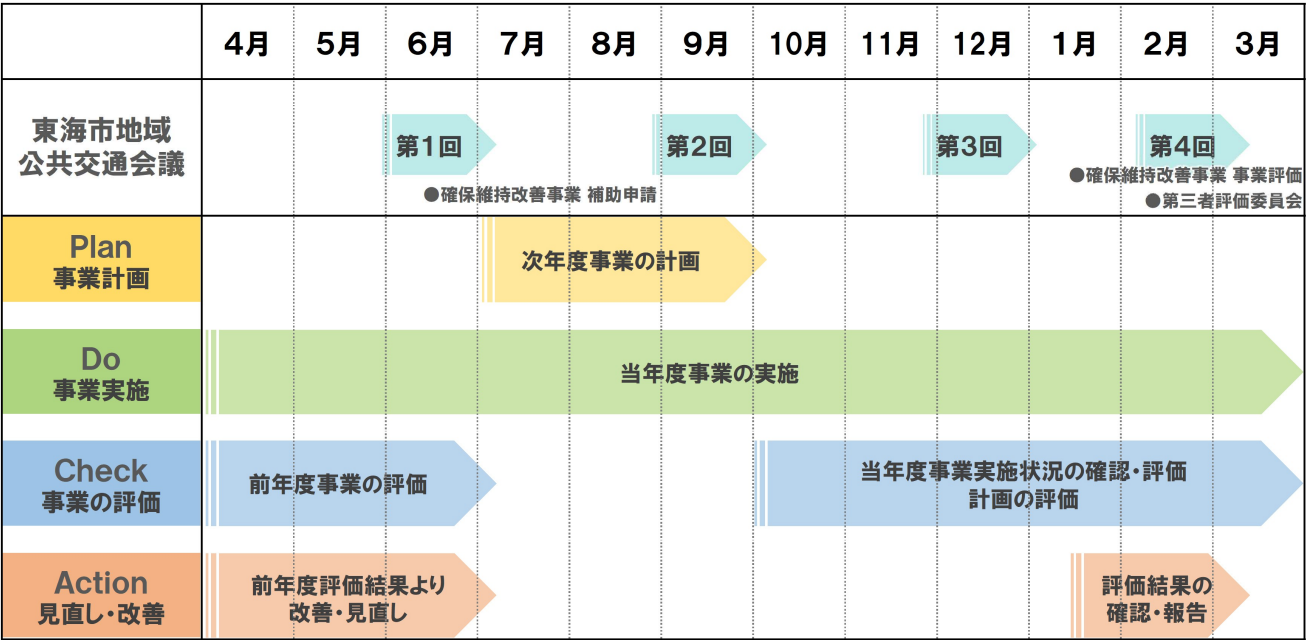
＜PDCAの進め方＞

本計画の推進にあたっては、PDCAサイクルに基づき、計画の立案・目標を設定（Plan）し、それに基づき事業を実施（Do）します。実施した事業の結果から設定した目標の達成状況を評価（Check）し、評価結果を踏まえ必要に応じて改善に向け見直し（Action）を行います。



＜協議会の開催状況＞

年間 4 回開催します。



次期計画策定



## 地域公共交通会議の実施状況

回数（実施日）	主な議題
令和6年度第4回 2月13日開催	令和7年度事業計画及び予算案 循環バス無料運行の実施
令和7年度第1回 6月27日開催	令和6年度決算 令和8年度地域公共交通確保維持事業案 地域公共交通計画の事業評価 地域公共交通計画に基づく取組内容 【報告】 令和5・6年度地域公共交通確保維持改善事業 二次評価結果 東海ハーフマラソンの開催に伴う循環バスの運休
令和7年度第2回 8月26日開催	令和7年度事業計画の変更及び補正予算案 循環バスのバス停移設
令和7年度第3回 12月23日開催	地域公共交通確保維持改善事業に係る事業評価 循環バスのダイヤ・ルートの一部改正 令和8年度循環バス無料運行の実施

※循環バスに関する議題のみを掲載

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年12月23日

協議会名: 東海市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者 名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備 内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業に おいて、車両減価償却費等及び公有民営方式車 両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている 場合、離島航路に係る確保維持事業において離 島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。) を受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間 において、前回の事業評価 結果をどのように生活交通 確保維持改善計画に反映さ せた上で事業を実施したか を記載】	A・ B・ C 評 価	【計画に基づく事業が適切に実 施されたかを記載。計画どおり 実施されなかった場合には、理 由等記載】	A・ B・ C 評 価	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。 改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地 域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果 を生活交通確保維持改善計画にどのように反映 させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載 すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその 旨記載
東海市地域公共交通会 議	・東海市循環バス名和線系統① 名和駅前～太田川駅前～名和駅前  ・東海市循環バス名和線系統② 名和駅前～太田川駅前～名和駅前  ・東海市循環バス富木島線系統⑤ 聚楽園駅前～西知多総合病院～尾 張横須賀駅前  ・東海市循環バス富木島線系統⑥ 尾張横須賀駅前～西知多総合病院 ～聚楽園駅前  ・東海市循環バス加木屋線系統⑦ 尾張横須賀駅前～太田川駅前～尾 張横須賀駅前  ・東海市循環バス加木屋線系統⑧ 尾張横須賀駅前～太田川駅前～尾 張横須賀駅前  ・東海市循環バス横須賀線系統⑨ 太田川駅前～尾張横須賀駅前～太 田川駅前  ・東海市循環バス横須賀線系統⑩ 太田川駅前～尾張横須賀駅前～太 田川駅前  ・東海市循環バス横須賀線系統⑪ 太田川駅前～アクアリンプラザ～太 田川駅前  (富木島線系統⑤、⑥及び横須賀線系 統⑨、⑩、⑪については車両減価償却 費等国庫補助金を活用)	・近隣市との協働、他部署と の連携した施策の実施を引 き続き行うことにより、利用 促進を継続した。  ・令和6年10月にダイヤ・ ルートを再編し、市内のどこ からでも本市の主要な鉄道 駅である太田川駅や尾張横 須賀駅へのアクセスがしや すくなった。  ・ダイヤ・ルート再編にあわ せてEV車両を2台追加し、 利用者の利便性向上及び環 境負荷の低減を図った。  ・ダイヤ・ルート再編後の利 用状況等の把握を継続的に 実施している。  ・加木屋中ノ池駅南口の整 備に合わせたバス停の新設 について、富木島線及び加 木屋線のダイヤ・ルートの改 正を検討している。  ・高齢者に対するスマホ教室 におけるバスロケーションシ ステムに関する周知や、小 学校でのバスの乗り方教室 の規模を拡充し、継続的に 実施している。	A	計画通り事業を実施した。	B	循環バスの利用者数(会計年 度) ※補助対象外路線を含めた全 路線の合計人数 目標: 324,000人 実績: 292,201人  ・新型コロナウイルス感染症の 影響により利用者数が急激に減 少したことにより、コロナ禍以前 に設定した目標を達成できな かった。令和5年5月に新型コロ ナウイルス感染症が2類から5 類に移行したことにより利用者 数は回復傾向にあったが、令和 6年10月のダイヤ・ルート再編 以降、利用者が減少した。  バスの乗り方教室や出前講座の 参加人数(会計年度) 目標: 333人 実績: 390人 ・バスロケーションシステムの使 い方講座回数を増加(48回→60 回)したことにより参加者人数が 増加している。 ・バスの乗り方教室を継続して実 施している。  ・令和6年10月のダイヤ・ルート再編 後の利用状況等を引き続き把握し、ア ンケート調査や乗降調査等により分析 を進め、より利便性の高いダイヤ・ルー トとなるよう近隣市町との連携・協働を 含めて検討する。  ・都市計画道路養父森岡線(幹線道 路)の開通(令和7年3月)や加木屋中 ノ池駅南口駅前広場の整備等の都市 基盤整備にあわせたダイヤ・ルート再 編について検討する。  ・主要な交通拠点における利用や乗り 継ぎ時の待合環境の向上を図るため、 バス停留所に上屋・ベンチ等整備を進 める。  ・循環バスについての周知及び利用促 進のため、広報紙や地元ケーブルテレ ビの番組等により情報発信する。ま た、出前講座及びバスの乗り方教室を 拡充して実施する。  ・利用者の利便性向上のため、Webチ ケットを導入する。  ・外国人のバス利用を促進するため、 外国語(英語)版ガイドブックデータ を作成し、ホームページに掲載する。

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年12月23日

協議会名：	東海市地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>東海市は、名古屋駅と中部国際空港を連絡する名鉄常滑線と、太田川駅から知多半島の南端を連絡する名鉄河和線による南北の公共交通基幹軸と、隣接する大府市のJR共和駅・大府駅と太田川駅を連絡する独自路線バス(知多バス上野台線・横須賀線)による東西の公共交通基幹軸により形成されている。これらの公共交通基幹軸を補完し、市内の公共施設及び住宅地域を結ぶ地域内フィーダー交通として循環バスによる市内の生活交通ネットワークが形成されている。令和6年3月16日には加木屋中ノ池駅(名古屋鉄道名鉄河和線・高横須賀駅～南加木屋駅間)の供用が開始され、令和7年3月末には、都市計画道路養父森岡線(幹線道路)が都市計画道路名古屋半田線まで開通したことから、今後市内交通の流れが大きく変わることが予想される。</p> <p>また、本市の中心的な交通の結節点である太田川駅周辺には、東海市芸術劇場を始めとした文化施設・大学・商業施設等が整備されたことにより、来訪者が増加しており、今後は、太田川駅西土地区画整理事業による新たな市街地の形成や令和9年以降のリニア中央新幹線の開通により、新たな人流が生まれることで、より一層の「にぎわい」創出が予想される。</p> <p>地域内フィーダーである東海市循環バスは、令和4年度に実施した市民アンケートでは60%の市民からバス交通は必要であるとの回答が得られている。循環バスの利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響により急激に減少していたものの、令和4年度以降は徐々に回復傾向となっており、令和5年10月から令和6年9月中では、前年同時期と比較して約7,000人増加した。これは、令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が2類から5類に移行したことに伴う、通勤通学や通院、買い物等の日常生活での公共交通の利用者の回復や継続して利用促進の取組みを行ったことが要因と考えられる。しかしながら、令和6年10月に実施したダイヤ・ルート再編後は、改正後のダイヤに利用者が慣れていないこと等により利用者が減少しており、徐々に回復傾向ではあるものの、継続して利用状況や利用ニーズを把握し、ダイヤ・ルート再編の影響を評価していく必要がある。</p> <p>継続して利用者・未利用者の調査・分析を進めつつ、令和8年度中に予定している加木屋中ノ池駅南口駅前広場の供用開始といった都市基盤整備に合わせた一部路線のダイヤ・ルートの改正について検討する。</p> <p>また、主要な交通結節点における利用や乗り継ぎ時の待合環境の向上を図るため、バス停留所に上屋やベンチ等の整備を進める。</p>